

上を向いて遊ぼう!プロジェクト

このプロジェクトは、放射能汚染により、外で自由に遊べなくなってしまった「福島の子もたちのためにできること」を目的に、市内のNPO法人や商店会など14団体により発足しました。

今回は夏の思い出をつくってもらおうと、8月20・21日に、福島県南相馬市の親子、9組22人を招待し、笠間焼などの体験や笠間のまつりに参加しました。

1泊2日の間でしたが、参加した子どもたちは笠間での夏休みを満喫しました。



跳ね人として笠間のまつりに参加しました

十六夜まつり

8月13日・14日、陶の小径（下市毛）で陶の小径商店会主催の十六夜まつりが開催され、通りは約1,000本の陶の筒灯りで彩られました。

9回目を迎える今年は、キャンドルアーティストの宮崎悦子さんを招きワークショップを開催したほか、アコースティックライブやろくろ体験、水ヨーヨー釣り、目の前で焼く窯焼きピザなど多彩な出し物が用意され、会場は多くの人でにぎわいました。



筒灯りに照らされた会場

ビオトープ天神の里 オオムラサキ観察会

ビオトープ天神の里で、ビオトープ天神の里を作る会と市環境保全課主催のオオムラサキの観察会が行われ、20名以上が参加しました。

オオムラサキは日本中に生息している蝶で、蝶の中でも最も大きく、美しい羽の模様が特徴です。

ビオトープ天神の里ではオオムラサキの保護と観察を目的として、オオムラサキの家を昨年建設し、今年は初めての観察会となりました。

今回は卵から幼虫、さなぎ、成虫とつづく成長の過程を一日で観察することができ、参加者は熱心に観察し、感嘆の声を上げていました。



オオムラサキの家と参加者の皆さん

「子育てを楽しむ～絵本を通じて～」 が開催されました

8月20日、第2回男女共同参画講座として友部図書館2階の視聴覚室で行われたこの催しは、男女共同参画の意識啓発を行う事業として毎年、テーマを変えて開催しているもので企画運営は6人の女性が担当しました。

当日は、絵本の読み聞かせサークル「アンブ」による実演や前つくばみらい市立図書館長の菊地邦夫さんの講演が行われました。参加者は、耳で聞きながら目で絵を見るといった絵本の特性を生かして、子どもの思いやりの心や好奇心、発見する力を育てることができるという絵本の魅力を熱心に学んでいました。



アンブによる読み聞かせの様子

朗読劇「遺されしものの想い」

8月21日、友部公民館で、まゆみ朗読会による朗読劇「遺されしものの想い」が上演されました。

第二次世界大戦末期、原子爆弾によって命を奪われた子どもたちの母親の手記をもとに構成したもので、ひき裂かれた親子の情を通して戦争の愚かさや平和の大切さを訴えかけました。



当時の写真も交えて上演されました

ま ち の 話 題

ミュージカル

「セロ弾きのゴーシュ」を観劇

7月29日、箱田小・穴戸小・友部小・大原小の各児童クラブの親子326名が、笠間公民館大ホールでわらび座のミュージカル「セロ弾きのゴーシュ」を観劇しました。

この催しは、笠間市ファミリーサポートセンターが会員同士の交流を目的に開催したもので、子どもたちは目の前で展開される迫真の演技を食い入るように見ていました。



子どもも飛び入りで参加し、太鼓をたたきました

馬術の全国大会で7位に入賞!

8月4日～7日まで山梨県馬術競技場で開催された全日本ジュニア障害馬術大会チルドレンライダー選手権(10～16歳の部)で、南小学校6年の大沢^{あかね}さんが見事7位に入賞しました。

障害馬術は、1周390メートルのコースに設けられた12の障害を飛び越えながら、タイムを競う競技です。

109人馬中60位で予選を通過した大沢さんは決勝戦で持てる力を存分に発揮、巧みな飛越で一度もバーを落とすことなく、7位入賞を果たしました。

馬術歴1年2か月の大沢さんの将来の夢は、オリンピック出場。今後の活躍が期待されます。



ライディングステーブルかさま(下市毛)での練習風景

「人権の花」を市に寄贈

8月1日、友部第二小学校(山口正俊校長)の4年生代表6名が校長先生、担当教諭や地元の人権擁護委員とともに市役所を訪れ、丹精込めて育ててきたマリーゴールドとサルビアのプランター計10鉢を市に寄贈しました。プランターは市役所の玄関前に飾られ、きれいな花を咲かせています。

「人権の花運動」は、法務省が全国の人権擁護委員と連携し、小学生を対象とした人権思想の啓発活動の一環として実施されているものです。



友部第二小学校関係者の皆さんと山口市長